

$0 < p < 1, 0 < q < 1, 0 < r < 1$  として、 $\overrightarrow{AP} = p\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AQ} = (1-q)\overrightarrow{AB} + q\overrightarrow{AC}, \overrightarrow{AR} = r\overrightarrow{AC}$  とおく。

点  $A$  を基準とした位置ベクトルを考えると、 $\triangle PQR$  の重心  $G_2$  は

$$\overrightarrow{AG_2} = \frac{1}{3}(\overrightarrow{AP} + \overrightarrow{AQ} + \overrightarrow{AR}) = \frac{1}{3}p\overrightarrow{AB} + \frac{1}{3}r\overrightarrow{AC} + \frac{1}{3}(1-q)\overrightarrow{AB} + \frac{1}{3}q\overrightarrow{AC}$$

ここで、 $\overrightarrow{AD} = \frac{1}{3}p\overrightarrow{AB} + \frac{1}{3}r\overrightarrow{AC}, \overrightarrow{AE} = \frac{1}{3}(1-q)\overrightarrow{AB} + \frac{1}{3}q\overrightarrow{AC}$  とすると

点  $D$  の存在範囲は、右図 i) の平行四辺形の内部であり、境界線を除く。

$AP_1 = \frac{1}{3}AB, AR_2 = \frac{1}{3}AC$  であり、 $G_1$  は  $\triangle ABC$  の重心である。

点  $E$  の存在範囲は、右図 ii) の太線上であり、両端の点は除く。

$AP_1 = \frac{1}{3}AB, AR_2 = \frac{1}{3}AC$  であるから、 $P_1R_2 \parallel BC$  である。

点  $D$  を固定したとき、 $G_2$  の存在範囲は、右図 iii) の太線上であり、両端の点は除く。

点  $D$  を図 i) の範囲内で動かせば、 $G_2$  の存在範囲は右図 (iv) の通り。境界線を除く。

なお、 $P_1, P_2$  は  $AB$  を、 $Q_1, Q_2$  は  $BC$  を、 $R_1, R_2$  は  $CA$  を、それぞれ三等分する。

